

善通寺市社会福祉協議会強化発展計画の実施状況について

Ⅲ 具体的な取り組み

【経営ビジョン1】

地域福祉への関心を高め、支えあう地域づくりを推進します

経営戦略	1-1 福祉の文化や意識をはぐくむための福祉教育を推進します
------	--------------------------------

地域の文化や風土を活かし、誰もが安心して暮らせるあたたかいまちづくりを目指し、地域の課題を「他人事」ではなく、「我が事」として捉え、市民一人ひとりが自分の暮らす地域に関心を持ち、多様性を認め、福祉に関する活動に主体的に参加できるよう、市民の意識の高揚に向けた福祉教育に取り組みます。

実施計画1－1－1 地域の実情の把握			
実施内容	地域の人口統計、地区の特性や資源などを把握したものを活用し、地域のニーズを分析し、地区の実施事業の取り組みの中で活用します。また、アセスメントシートづくりを、地域の方と一緒に作ることを通して、地域にある社会資源の情報を整理し、8地区地域福祉活動計画の推進や次期計画の策定に役立てます。		
年次計画			
実施項目	R5年度	R6年度	R7年度
1 地域アセスメントの実施及びマップ化の検討	検討	実施	
2 地区社協実施事業への積極的な参加	継続実施		
評価指標等	令和4年度基準値	目標値(令和7年度)	令和5年度実施状況
1 地区地域福祉活動計画を活かした、地域アセスメントシートづくり	8地区の基礎データの把握	社会資源のリスト、インフォーマルな資源や活動等の把握、可視化 次期地区地域福祉活動計画の策定に活用	B 基礎データを集約し、グラフ化した。 地区社協総会(5月)等で地域の人口・高齢化率等について確認する機会となった。
2 地区社協等の活動取材し、広報に掲載することを通して、地域の人と関わり、活動の現状を市民に向けて発信し、地域への関心を高める	社協広報誌に、地区社協の活動を掲載(年4回)	年4回	A 地区社協や民児協等の活動取材し、社協だよ！に掲載。インスタグラム・フェイスブックにも掲載できるしくみができた。

A:できている B:ある程度できている C:あまりできていない D:できていない

実施計画1－1－2 権利擁護を基盤とした福祉教育の推進				
実施内容	地域住民や地域の多様な主体が『我が事』として参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えて『丸ごと』つながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域とともに創っていく社会を目指します。差別や格差、孤立などの問題が地域生活課題の一つであることを意識し、地域住民の理解を深める機会をつくり、その壁を取り除くとともに、地域で活動するすべての主体が、ともに理解し合い、認め合える福祉教育を行います。			
	年次計画			
	実施項目	R5年度	R6年度	R7年度
	3 地区社協と連携した座談会の開催	継続実施		
	4 次世代交流を目指した地域と学校の連携の検討	検討 実施		
5 地域の実情や福祉についての取り組みの情報発信	継続実施			
6 多様性を認め合える場づくりの支援	継続実施			
評価指標等		令和4年度基準値	目標値(令和7年度)	
3 地区福祉座談会の実施		2地区	8地区	
4 学校と地域が連携し体験プログラムを検討・メニュー化 (地区社協活動や赤い羽根共同募金の仕組みを活用する)		未実施	各担当者と検討の機会を持つ	
5 ホームページ広報誌等での福祉についての情報を掲載 (シリーズ化、誌面レイアウトを見直すなど編集の仕方を検討 福祉教育の視点を盛り込む)		継続実施	充実強化	
令和5年度実施状況				
D	地区社協会長に向け、アプローチ。(西部地区社協の見守り活動ネットワーク事業研修会にて実施予定だったが、開催には至っていない。)			
B	各地区民児協にて、学校の状況を聞く情報交換に場に同席。(中央・東部・西部・与北・竜川) 学校募金の集金の際に小学生に向けた、共同募金のしくみや活動を紙芝居方式でできるよう準備し、8校区に実施した。 マネープランゲームの研修を受講し、今後の展開を検討していく。			
A	6 月ホームページ・インスタ・FBで発信できるようシステムが整う。 Instagramに『社会資源とは』を掲載。 広報の字体にUDフォントを利用。 ここ家の誌面レイアウトを見直した。			

6 ここ寄席、地区社協の研修等を活用し、多様性を認め合える場づくりを実施	実施	充実強化	A	福祉大会の記念誌の発行の際、社協の活動内容がSDGSにつながっていることをPRした。 ここ寄席を定期的で開催した。(地域で活躍する人を知ってもらえ、地域住民の気づきや学びを得る機会となった。)
--------------------------------------	----	------	---	---

A:できている B:ある程度できている C:あまりできていない D:できていない

経営戦略	1-2 住民主体の支えあえる地域づくりを推進します
------	---------------------------

誰もが支え合い、安心して住み慣れた地域で暮らしていくためには、身近な地域で、それぞれの困りごとや心配事などが相談できるしくみや、早期に発見し、専門機関につなげるしくみが必要です。

地域の住民が主体的に参加し、交流を図り、学びあいながら、各地区の特性を生かし、これまでの活動を活性化したり、再構築する過程を通して、地域の住民とともに支えあえる地域づくりを推進します。

実施計画1－2－1 コミュニティソーシャルワーク機能の強化						
実施内容	地域において、生活のしづらさを抱える人やその世帯を地域でトータルに支える仕組みをつくるため、コミュニティソーシャルワーカーが配置されています。誰もが地域の中で孤立することなく、自分らしく暮らしていくために、「困りごとが社協に」つながるしくみづくりや、地域の「つながり・支えあい」の基盤づくりをします。					
	年次計画					
	実施項目	R5年度	R6年度	R7年度		
	7 各地区民協に参加する職員の参加のあり方の検討	継続				
8 サロン、見守り活動、居場所等、地区社協活動事業から地域生活課題の把握	継続					
9 小地域ケア会議等の開催を関係者に働きかける	準備	開催				
評価指標等		令和4年度基準値	目標値(令和7年度)		令和5年度実施状況	
7 民児協定例会等の参加の手引きをつくる	検討	手引きの完成		B	地区民児協にて、説明資料の作成。(伝えるポイントを共有化。)	
8 サロン、見守り活動、居場所等、地区社協活動事業から地域生活課題等について地域支援シートを活用し、見える化する	地域支援シートに記入し、共有	地域支援シートに記入し、地域課題を整理、座談会等で活用		B	地域支援シートの記入・入力を意識づけて、年間を通して行い、情報共有を図った。サロンパワーアップ研修の案内時にアンケートを実施する計画。(令和6年度に実施予定。)	
9 見守り推進員連絡会等での、困りごとの解決にむけた協議の場づくりの検討・実施	未実施	3 地区で実施		B	筆岡地区の見守り活動ネットワーク事業研修会において、相談支援グループの事業説明を行った。また、竜川地区や西部地区でも同様の研修を実施した。協議の場づくりについては令和6年度に検討していく。	
9 事例検討や事後変化に関するフィードバックを徹底する	実施を心掛けているが、不十分	困りごとの相談後の変化や解決した状況に関係者と共有		A	民生委員等から、相談のあった個別ケースについて、必ずフィードバックを行うようにしている。相談支援グループが定期的(2～3ヶ月に1	

				回)に地区民児協に出向き、事例紹介を行った。事業ごとに関わった事例を中心に 取り上げ、フィードバック、事後変化を伝えている。
--	--	--	--	---

A:できている B:ある程度できている C:あまりできていない D:できていない

実施計画1－2－2 地域福祉活動の支援				
実施内容	コロナ禍により、大勢が集まり交流会や会食会を実施する事業が中止するなど、交流の機会や、地域の多様な団体に協働して取り組む機会が減っています。 改めて地域の福祉活動として『交流・参加・学びの機会』をつくるため、地域の状況に合わせ、目的や対象者などの現状をふりかえり、地域の住民とともに支えあえる地域づくりを推進します。			
年次計画				
実施項目	R5年度	R6年度	R7年度	
10 地区社協活動の後方支援	充実強化			
11 地域の特性に応じた支援の在り方を検討	検討・実施			
12 地区社協モデル事業の支援	充実強化			
13 顔の見える関係の構築	充実強化			
評価指標等	令和4年度基準値	目標値(令和7年度)	令和5年度実施状況	
10 地区社協活動の役員会への参加	実施	目的をもって参加	A	地区社協役員会等に参加し、目的を地区ごとに整理し、共有するための検討を行った。 4月、5月 総会の開催に向けて相談 7月～ 地区社協研修会の相談、企画提案、連絡調整
見守りネットワーク事業の推進に向けた働きかけ	6 地区	8 地区	B	南部地区では、地区民児協の会長からも相談があった。地区内で団体間での話し合いの場を持てるよう、会長に働きかけているが、未実施。 中央地区では、民児協においてアプローチしていけるよう準備。
地域福祉活動の担い手講座の開催	未実施	年1回開催	A	地域福祉活動リーダー研修会として、雲南市の小規模多機能自治について学んだ。地区社協の広報誌担当者の座談会を企画、講師に地域おこし協力隊に依頼した。また居場所づくり講座を実施した
11 地域診断の力を強化する研修の実施 (専門性から見た地域課題を地域にフィードバックする)	未実施	年1回開催	D	未検討。

12 地区社協モデル(地域の拠点・居場所づくり)	1 地区実施	4 地区で実施	A	地区社協モデル事業として「居場所・拠点づくり要綱」検討した。東部地区と吉原地区で実施。(吉原地区は東部地区の取り組みについての視察、聞き取りを行い実施に至る。) 筆岡は、視察研修の目的とし、あったかふれあいセンターを見学。竜川地区、会長から相談があった。
地区社協モデル(地域のお宝発見講座)	未実施	年 1 回開催	C	職員が研修を受けたが、地区では未実施。
地区社協モデル(担い手養成講座)	未実施	3 地区実施	C	地域福祉活動の担い手づくり講座の一環として、地区社協広報誌の担当者座談会や居場所づくり講座を実施し、地区社協の関係者に広く参加いただいた。 また、地区社協研修等の企画・相談支援を通して、見守り活動(東かがわ市へ吉原地区)(リハビリテーションセンターへ西部地区・筆岡地区)等や地域の拠点づくり(高知県佐川町へ筆岡)先進地の見学。吉原地区は、福祉委員理事等合同研修会にて、フレイル予防など介護予防講座を実施支援した。 全体的なものは未実施。
地区社協モデル(生活支援サービスの検討)	地区社協で研修の実施	検討の機会を増やす(視察研修など)	B	地区社協の研修(筆岡地区・吉原地区)において、実施地区(佐川町、東かがわ市)の活動を学び、地区での実施に向けて働きかけた。
13 地区社協活動に参加した際に、社協の職員の顔を覚えていただけるよう(似顔絵入りなど)、名刺を 100 枚配付	未実施	デザインの検討・実施	B	ホームページ・インスタ・FBへアクセスするQRコードを裏面に配置した名刺カードを作成。その都度配布しているが、100枚は配布できていない。

A:できている B:ある程度できている C:あまりできていない D:できていない

実施計画1－2－3 民生委員との連携強化					
実施内容	市民の身近な相談役、また市民と行政や専門機関、福祉サービスへのつなぎ役として地域福祉の中核を担う民生委員児童委員と連携し、地域の状況や課題を把握していくため、定例会や研修会へ出席するなど、活動の情報共有を行い、一人ひとりの委員活動及び地区民生委員児童委員協議会活動の支援に努め、地域の福祉活動のさらなる充実を図ります。				
年次計画					
実施項目	R5年度	R6年度	R7年度		
14 市社協事業(居宅要援護者把握事業等)との連携や地区社協活動をつなぐしくみづくり	充実・強化				
15 ケース検討ができる民協の仕組みづくり	検討	充実・強化			
16 民生委員の任期期間における効果的な対話や支援のしくみづくり	検討	充実・強化			
評価指標等	令和4年度基準値	目標値(令和7年度)	令和5年度実施状況		
14 各地区民児協にて、情報提供や、専門相談機関へのつなぎ役となる	実施	ミニ研修会の実施	A	相談支援グループが3ヶ月に1回企画実施。自立支援協議会精神保健福祉部会から、地区民児協において、地域の精神障害等に関するヒアリングを全地区実施。地区総会のなかった、南部、竜川において民児協でチラシ(サロン、見守り、CSW)を配布。	
14 居宅要援護者把握事業及び災害時要配慮者台帳の検討	居宅要援護者把握事業を実施	強化・検討	A	社会福祉課と協議し、要援護者・要配慮者支援に関わる関係各課と現状を聞く場(災害時支援体制等検討会議)に参加。市災害時に活用できるように、地域の方に集まっていただき説明会を開く方向で検討されている。	
15 民生委員から相談のあった事例について、事例検討や事後変化についてフィードバックする	相談のあった民生委員にフィードバック	地区民児協でフィードバック	A	9と同じ相談支援グループが2ヶ月に1回、地区民児協に出向き、ミニ研修会実施。事業ごとに関わった事例を中心に取り上げ、フィードバック、事後変化を伝えている。	

16 民生委員の任期期間における効果的な対話や支援のしくみづくり	未実施	検討	C	効果的な対話や支援の仕組みづくりにつながるよう地区民児協で事例紹介やミニ研修を行ってはいるが、全体的なしくみづくりは検討できていない。(3年任期中の計画) 民生委員から、事例をもっと聞ける機会が欲しいとの意見があったが、まだ検討できていない。 民生委員同士の対話の機会として、全員研修会でグループワークを実施した。
----------------------------------	-----	----	---	--

A:できている B:ある程度できている C:あまりできていない D:できていない

実施計画1－2－4 地区担当とコミュニティソーシャルワーカーの連携強化				
実施内容	社会福祉協議会が実施している各種福祉サービスや事業の担当者とも連携し、個別支援を通じて受け止めた生活課題を地域の課題として捉え、だれもが安心して暮らし続けることが出来る地域となるよう、社協組織内での連携を強化します。また住民等が主体となり、課題解決に向けて取り組む支え合い活動を支援する際にも、専門職のいる市社協の組織の強みを活かした取り組みを検討していきます。			
年次計画				
実施項目	R5年度	R6年度	R7年度	
17 地区の担当とCSWの役割整理	検討・実施			
18 地域生活課題の把握、情報共有の場づくり	充実強化			
19 課題解決にむけての話し合いの場づくり	充実強化			
評価指標等	令和4年度基準値	目標値(令和7年度)	令和5年度実施状況	
17 地区担当とCSWの機能や役割を整理し、可視化、共有	未実施	役割を整理し、可視化	B	地域福祉係を相談支援と地域支援のグループに分け、役割分担を行った。 CSW研修会へ民生委員12名参加。CSW 実践研修に1名参加。また、全国での CSW の研修に1名参加した。 役割の整理や可視化については検討中。
18 係連携会議等を活用し、地域の課題と社協のサービス担当者との現状と課題を整理する場をつくる	試験的に実施	3 か月に 1 回	B	係連携会議において、事例検討やグループスーパービジョンを用いて実施するにあたって相談対応困難ケースを集めた。
19 住民主体の視点をもった課題解決にむけた取り組み(会議の場の設定、調整、情報収集)の実施	試験的に実施	実施	B	地域福祉活動リーダー研修において、住民自治力をあげる支援をしている島根県雲南市に視察。地域づくり、行政・社協の役割分担、拠点などを学ぶため等、目的をもって研修を企画支援。

A:できている B:ある程度できている C:あまりできていない D:できていない

経営戦略	1-3 誰もが活躍できるよう仕組みを作ります
------	------------------------

地域共生社会の実現に向けて、『支援する・される』から『頼り・頼られて活躍する』地域づくりが求められています。また、世代や属性を超えて交流できる場や居場所を整備することが必要となっています。その地域で暮らす誰もが、元気に活躍し続けられる場をつくり、頼りたい人と頼られたい人をつなぐためのプラットフォームを作るため、地域福祉活動の担い手づくり、拠点づくりを行います。また、地域生活課題を解決するための社会資源づくりのため、PDCAサイクルを意識し、住民とともにしくみづくりを行ないます。

実施計画1－3－1 地域福祉の担い手・リーダーの育成				
実施内容	地域福祉活動への関心を高め、参加を促すとともに、地域福祉活動をさらに活性化させていくため、研修会の企画、検討充実強化に努めます。			
年次計画				
実施項目	R5年度	R6年度	R7年度	
20 地域福祉の担い手を育成する研修会の実施	検討・実施			
21 地域福祉リーダーの研修会の実施	検討・実施			
評価指標等	令和4年度基準値	目標値(令和7年度)	令和5年度実施状況	
20 地区社協と連携した地域福祉サポーター養成研修の実施	未実施	検討 年1回	B	地区社協広報についての情報交換会の参加を通じて、新たな人を巻き込む機会となった。
20 地域福祉活動を住民主体でできるよう、ふれあいいいきサロン代表者等の研修会を実施	年1回	年1回	A	12月にサロン代表者を集めて、パワーアップ研修会を開催し、サロンがゆるく長く続くポイントや担い手不足をどう解消するかといった話を講師にいただき、一定の成果を得た。
21 地域福祉リーダーの研修会の実施 (地区連合自治会長、地区民児協会長、地区社協会長等と連携協働するための研修会)	年1回	年1回	A	11/1～2 住民自治力をあげる支援をしている島根県雲南市に視察。持続可能な地域づくりを住民・行政・社協との役割分担、拠点など共に検討を重ねられている地域を視察。

A:できている B:ある程度できている C:あまりできていない D:できていない

実施計画1－3－2 地域福祉の拠点づくり				
実施内容	市民の誰もが元気に、楽しく、活躍できる場、利用する場、情報を共有することができる拠点づくりの整備と充実に取り組みます。また、地域において、地域活動を推進する団体や組織とも積極的につながり、それぞれが実施する居場所の役割、活動内容、課題整理を行い、連携強化を図ります。			
年次計画				
実施項目	R5年度	R6年度	R7年度	
22 ここ家及びボラン家の活性化を図る	検討・実施			
12 地区社協モデル事業の支援	検討・実施			
23 地域の居場所づくりの推進及び地域内にある居場所(子ども食堂や居場所)のネットワークづくり	検討・実施			
評価指標等	令和4年度基準値	目標値(令和7年度)	令和5年度実施状況	
22 ここ家の活性化を図る 機能・利用・活動について再検討する機会をつくる 課題整理、アイデア、企画開発、地域のニーズの対応 楽しいことを考える場をつくる	検討中	検討実施	B	定期的にここ家について考える会(地域福祉係での打ち合わせ)を実施。 アート教室で、夏休み親子教室を企画、開催し、親子2組の参加があった。 また、シェフの協力者の確保が難しくなっている課題について話し合い、対応策を出し合った。(ニーズ調査、人材育成はここ家としても強化していく。)
22 ボラン家の活用を検討 機能・利用・活動について再検討する機会をつくる 課題整理、アイデア、企画開発、地域のニーズの対応 楽しいことを考える場をつくる	未実施	検討実施	C	コミュニティかふえ(火曜日 10時～14時)は、インスタ等にアップすることにより口コミも広がり、参加者が増加している。また、図書館とライブラリーにもチラシの設置をお願いした。 CSW の調整により、福祉サービス利用援助事業利用者のミニ作品展を開催することができた。今後も掲示を協力してくれる団体や個人を探していく予定。

				ボラン家全体の活用方法については検討できていない。
12 地区社協モデル事業の支援 地区社協等の居場所づくりを応援し、多様な主体が参加、活躍できる場となる居場所づくりを行う	地区社協においてミニここ家を試行的に実施	地区社協においてミニここ家、居場所づくりの実施	B	東部地区でミニここ家(第 2 回)および吉原地区でキッズここ家(第1回)開催に向けた支援を実施した。
23 地域内にある拠点同士のつながりづくり、ネットワークの場づくりや情報共有	未実施(個別に相談をうけている)	検討実施	B	ここ家では、近隣住民やここ家利用者の困り事を各機関につなげることを強化した。 子ども食堂が市内 4 か所あるが、企業や団体からの寄付の受け渡しについてコーディネートを行った。

A:できている B:ある程度できている C:あまりできていない D:できていない

実施計画1－3－3 新しいサービスや資源づくり				
実施内容	世帯全体の高齢化や複合的な課題を抱える世帯の増加により、児童、高齢者、障がい者、生活困窮者などの分野ごとの対応だけでは課題の解決が難しくなっています。社協における包括的な相談支援体制を進めるとともに、住民の参加のもと、地域生活課題の解決にむけた取り組みを考える場づくりや、特技を活かした輝ける場づくりを通じて、人と人がつながり、生きがい、やりがいを感じられる新しいサービスや資源づくりを行います。			
年次計画				
実施項目	R5年度	R6年度	R7年度	
24 生活課題に対応した新たなサービスや資源開発の検討	検討 実施			
12 地区社協モデル事業(居場所、地域のお宝発見講座など)の支援	充実・強化			
25 課題解決に向けたプロジェクト化の推進	検討・実施			
26 特技を活かした輝ける場づくりの検討	検討	企画・実施		
評価指標等	令和4年度基準値	目標値(令和7年度)		令和5年度実施状況
24 生活課題の現状を把握・共有する機会をつくる 当事者の集まりや、地域ネットワーク会議の実施	年1回	年2回		A 地域ネットワーク会議を開催した。 ひきこもりの家族を対象とした居場所「ひきこもり家族のつどい」や、発達障がいがあったり、コミュニケーションのしづらさを抱えていたりする方を対象とした居場所「ゆるゆるカフェ」を開催した。 市と協働して「ひきこもりフォローアップ研修」も実施。
12 地区社協モデル事業についてのPDCAサイクルをイメージし、企画・調整・ふりかえり等を地域に働きかける	2地区	6地区		A 東部地区社協でミニここ家を、吉原地区社協でキッズここ家を実施し、それぞれ企画・調整・ふりかえりを行った。 視察研修の企画と連絡調整を行った。
25 地域生活課題解決に向けて住民と話し合いの場を持ちプロジェクト化を進める (例:ごみバスターズ、つぶやきボックス)	検討	実施		B 地域ネットワーク会議において、緊急課題として、年末フードドライブの食品の集め方や協力先等についてアイデア出しを行った。

26 地区社協モデル事業の実施 (地域のお宝発見(人)発見講座(仮)などを実施し、特技を活かし活躍できる場、参加できる場につなげる)例:認知症があっても、特技のある人を見つける例:百歳体操を通して元気な人づくりを推進)	検討	実施	B	地域で特技を活かして活躍している方などに語り手となっていただき、ここ寄席を実施した。
---	----	----	---	--

A:できている B:ある程度できている C:あまりできていない D:できていない

経営戦略	1-4 安心して暮らせる地域となるため必要なネットワークを作ります
------	-----------------------------------

地域共生社会の実現に向けて、地域福祉活動推進のためのネットワークの場づくり、また官民協働の重層的な地域福祉ネットワークの構築は大変重要となります。

地域福祉活動を推進するためには、各圏域(単位自治会、小学校区、市全域、中讃圏域、県圏域)ごとに住民、専門職、当事者を含めたネットワークの場づくりが重要です。また、課題ごとのテーマに応じたネットワークの推進や各種ネットワークの会議への参画も含め、市社協として機能を活かしたネットワークづくりを進めます。

実施計画1－4－1 住民・専門職等の顔の見える関係づくり				
実施内容	香川おもいやりネットワークとも連動し、市内の社会福祉法人や医療や介護、福祉、教育分野の相談を担う専門職と、住民の相談役である民生委員児童委員が一同に会し、顔の見える関係をつくり、地域生活課題を解決する支援体制づくりのためにネットワークの構築を進めます。			
年次計画				
実施項目	R5年度	R6年度	R7年度	
27 地域ネットワーク会議の定期的な開催	実施			
28 地域ネットワーク会議のメンバーの拡充・強化	拡充・強化			
29 既存のネットワークへの積極的な参加	意識して、啓発			
評価指標等	令和4年度基準値	目標値(令和7年度)	令和5年度実施状況	
27 地域ネットワーク会議の定期的な開催	年1, 2回	定期的な開催 事例検討	A	年1回地域ネットワーク会議を実施した。 施設担当者会を実施。
28 コアメンバー等で今後のネットワークの場の在り方を検討する	検討	拡充	C	施設担当者会は実施できたが、コアメンバーで今後のネットワークの場の在り方は検討できていない。
29 広域的なネットワークへの積極的な参加や県内外の社協間の顔の見える関係づくり(県圏域、中讃圏域、市内)	参加	拡充	A	香川おもいやりネットワーク事業担当者会に参加。 CSW研修会(東京、香川県CSW実践研修)、 香川県CSW実践研究総会への参加。 自立支援協議会 精神保健福祉部会や発達

				支援部会への参加。 福祉ファシリテーター養成講座へ参加。 災害CSW研究会設立セミナーへ参加。 ひきこもり支援関係者ネットワーク会議に年間を通して参加。
29 日常業務を通じ、様々なネットワーク会議へ参加し、顔の見える関係づくりを進める	参加	拡充	B	あんしん相談会勉強会への参加。 各種担当者会に参加。 市民後見人養成研修の企画、実施に向け連絡調整をし、中讃西圏域で協働し実施した。

A:できている B:ある程度できている C:あまりできていない D:できていない

実施計画1－4－2 課題に対応したネットワーク会議の検討				
実施内容	相談支援担当者とも連携し、ニーズに対応できる仕組みづくりのため、必要に応じ地域生活課題に対応したネットワーク会議を開催します。			
年次計画				
実施項目	R5年度	R6年度	R7年度	
30 課題に対応したネットワーク会議の検討				
評価指標等	令和4年度基準値	目標値(令和7年度)	令和5年度実施状況	
30 地域生活課題解決のため、災害対応、農福連携、住居確保、居住支援などテーマごとにネットワーク会議を実施し、情報収集と関係づくりを進める	未実施	検討	B	災害ボランティアセンター三者連携会議（社協、行政(市)、行政(県))の研修に参加。 災害対応、重層的相談支援体制備事業に関する勉強会を開催。 地域ネットワーク会議の中でフードバンク及びドライブについての緊急会議を実施した。

A:できている B:ある程度できている C:あまりできていない D:できていない

【経営ビジョン2】

住民が安心して暮らせるよう、包括的な相談支援体制とサービス提供体制を整えます

経営戦略	2-1 断らない包括的な相談支援を強化します
------	------------------------

今日の物価高とコロナ禍の長期化により、生活再建が困難となっている方や厳しい生活を余儀なくされている方が増加しており、個人や世帯が抱える課題も一層複雑化・多様化しています。また、世代や分野を超えた課題も多く、どのような相談もまずは受け止め、適切な機関につないでいく総合相談窓口が求められています。

このことから、本会では住民が安心して暮らせるよう、断らない相談支援を強化し、包括的な相談支援体制を作ります。

実施計画2－1－1 断わらない包括的な相談支援の強化				
ねらい・ポイント	コロナ禍において、若年層やひとり親世帯、個人事業主やフリーランス、年金生活者等からの相談が増えています。生活困窮や障がい、8050 問題やひきこもり、ごみ屋敷や社会的孤立、虐待や DV、住まいや就労に関する相談など、地域には様々な課題があります。このような困りごとを抱える方が相談につながるよう断らない相談支援を強化します。			
年次計画				
実施項目		R5年度	R6年度	R7年度
31 特例貸し付けのフォローアップ支援、アウトリーチの強化		検討	実施	
32 関係機関との情報共有の緊密化		強化・実施		
33 断らない相談体制づくり		強化・実施		
評価指標等		令和4年度基準値	目標値(令和7年度)	
31 特例貸し付けのフォローアップのために、借受人の情報収集や生活課題を把握		対象者全員については未実施	対象者全員について完了させる	
31 食料品の配布会を活用したアウトリーチを実施		年末に実施	年1回以上実施	
			A	フォローアップの電話や訪問により、免除申請や口座振替ができていない未応答世帯(約100世帯)に架電や訪問を行い、生活課題の把握に努めた。
			A	年末に食料品の配布会と相談会を実施し、支援が途切れていた方の生活状況を知ることができ、特例貸付の免除申請につなげることもできた。

32 関係機関との連絡が取りやすいよう情報を整理する	実施	充実・強化	A	キントーンを活用し整備した。
33 家計改善支援事業の導入	受託の検討	受託	A	年度初めにチラシを関係機関に配布。また、年末の食支援の案内時にチラシを同封し、家計改善支援を必要とする方へつながるよう広報・周知に努めた。毎月10名程度継続して相談を受けている。

A:できている B:ある程度できている C:あまりできていない D:できていない

実施計画2-1-2 制度のはざまの課題や世帯への対応				
ねらい・ポイント	専門分化した課題ごとの相談窓口や制度では複雑化・複合化した課題に対応することが難しい現状があります。どの制度も利用することができず、困難を抱えて生活している方や世帯に対して伴走型支援を行い、解決への希望を持ってつながりを継続することを目指します。また、相談につながる方が難しい方へ支援が届くよう、「困りごとは社協へ」ということを常に発信し続けます。			
年次計画				
実施項目	R5年度	R6年度	R7年度	
34 どのような相談もまずは受け止める意識づくり	実施			
35 困りごとは社協へという仕掛けづくり	検討	実施		
36 伴走型支援を意識した関わり	強化・実施			
評価指標等	令和4年度基準値	目標値(令和7年度)	令和5年度実施状況	
34 職員が地域生活課題の全体像を把握できるよう、職員全体で情報共有できる機会を持つ	未実施	年1回以上実施	B	係連携会議と地域連絡会を活用し、情報共有しているが、全体像の把握までは至っていない。ラインワークスも活用し、情報共有を日常的かつ継続的に行っている。
35 地域住民の理解を深められるよう、ひきこもりや生活困窮、障がい等に関するミニ勉強会を実施	未実施	年1回以上実施	A	民生委員、地区社協に向けて社協の事業説明と事例紹介を行った。 精神障がいがある方の地域での暮らしについて、自立支援協議会精神保健福祉部会が8地区民協でヒアリングを実施。精神障がいのある方への理解を深めるきっかけとなった。 ひきこもり研修を実施し、約50名の参加があった。 市民後見人養成研修を通して権利擁護について周知・広報を図ることができた。

35 制度のはざまの対応ができるよう、民生委員や行政各課および関係機関に、コミュニティソーシャルワーカーや生活困窮者自立支援事業に関するチラシを配布	未実施	年1回	A	コミュニティソーシャルワーカーのチラシを地区社協総会等で配布。生活困窮のチラシは新しいものになっていないが、家計改善支援事業のチラシを作成し、配布した。 地区民協や地区社協で社協の相談事業についての説明や事例紹介を行い、制度の狭間に対応できるよう周知・広報に努めた。
36 伴走型支援について職員が学ぶ機会を作る	未実施	年1回	A	新任の担当者が生活困窮の全国人材養成研修を受講し、伴走型支援について学んだ。

A:できている B:ある程度できている C:あまりできていない D:できていない

実施計画2-1-3 組織内の専門性を活かした連携の充実				
ねらい・ポイント	地域の方が安心して暮らせ、自分らしく生きがいをもって日々を過ごせるよう、本会で実施している相談窓口や福祉サービス、介護・生活支援サービスの機能を強化します。また、組織全体で地域生活課題に取り組めるよう、それぞれの専門性を活かした連携の充実を図ります。			
年次計画				
実施項目	R5年度	R6年度	R7年度	
37 組織内で複数の専門職(日常の金銭管理や訪問介護等)が関わっている同一世帯の支援を通じたケース検討の場づくり	強化・実施			
38 組織内の専門職の機能の整理と情報共有	検討	実施		
39 係間で地域生活課題を確認・把握できる場づくり	検討	実施		
評価指標等	令和4年度基準値	目標値(令和7年度)	令和5年度実施状況	
37 係を超えてケース検討ができる機会を持つ	未実施	年1回以上	A	係連携会議で事例検討を4回(開催月に2回ずつ)実施。
38 係連携会議を活用し、それぞれの専門性の強み・弱みを出し合い一覧表を作成する(弱みを補い合えるものを見つける)	未実施	一覧表の完成	C	未実施。係連携会議等で話し合う中に自然と強み弱みの話は出るが、可視化はできていない。来年度作成の予定。
39 多くの職員がコミュニティソーシャルワークの研修に参加する	未実施	年2名程度	A	新任職員1名がCSWの研修に参加。また、1名が全国での研修に参加した。3名が、ふくしファシリテーター養成講座に参加した。

A:できている B:ある程度できている C:あまりできていない D:できていない

実施計画2－1－4 伴走型支援の充実強化					
ねらい・ポイント	複雑化・複合化した課題を抱えている世帯や、社会的孤立の状態にある方などに対して、課題解決を目指すアプローチのみでは支援の限界があります。課題の解決が長期に渡ったり、解決が困難な状態にあったりする方や世帯に対して、つながり続けることを目指すアプローチが求められています。このような伴走型支援の充実・強化をはかるとともに、課題を抱える方たちのストレングスに目を向け、可能性をアセスメントするエンパワメントの関りを充実させます。				
年次計画					
実施項目		R5年度	R6年度	R7年度	
40 アウトリーチによる継続支援		強化・実施			
41 エンパワメントの関わり		実施			
評価指標等		令和4年度基準値	目標値(令和7年度)	令和5年度実施状況	
40 居場所や食支援などを通じたアウトリーチ		実施	年1回以上	A	ここめしを5回(6月から2カ月に1回)実施。ここめし女子会を3回実施。年末にフードドライブを実施し、相談会も併せて行った。
40 介護・生活支援サービスを活用したアプローチ		未実施	強化・実施	A	ヘルパーやここ家の生活支援サービスを活用し、必要な支援が届くよう、担当者との連携を図っている。ここ家の日誌を通して情報共有を密に行った。
40 民生委員や地域の方からの相談の丁寧な対応 (初回相談は可能な限り一緒に面談、訪問等行う)		実施	強化・実施	A	社協に入った相談をまずは受け止め丁寧な聞き取りを心がけている。必要に応じて、一緒に訪問したり来所での面談を行ったりしている。また、フィードバックも必ず行うよう職員それぞれが意識している。

41 ストレングスやエンパワメントの視点を共通認識できるようケース記録の取り方を意識づける	未実施	実施	A	各事業で統一した様式を活用し、それぞれがストレングスやエンパワメントの視点を持って行っている。研修等も活用し、意識づけている。
---	-----	----	---	---

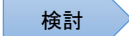
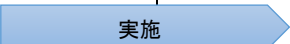
A:できている B:ある程度できている C:あまりできていない D:できていない

経営戦略	2-2 住民に信頼され、あらゆる生活課題を受け止められる社協職員を目指します
------	--

今日のような複雑・多様化した社会では、地域における生活課題も様々で、複雑に絡み合ったものは解決までに時間がかかり、相談すらもあきらめて出来なくなっている方が存在します。このような方や身近にいる地域住民の方が本会に相談することで今後の生活に希望が持てるよう、本人を中心として“伴走”する意識を基盤として、横断的な幅広い知識の習得とアセスメント技術の向上に努めます。

実施計画2-2-1 相談業務及びサービス提供業務に必要な知識及び技術の向上				
ねらい・ポイント	包括的な相談支援が担える制度横断的な知識やアセスメント技術の向上を図ります。住民に信頼されるよう、日常業務を通して自己研鑽に努めます。			
年次計画				
実施項目	R5年度	R6年度	R7年度	
42 アセスメントシートを活用してのケース検討の場の確保	検討	実施		
43 貸付相談における総合的なマネジメントの視点を開発	検討	実施		
44 連絡メモを活用した情報等の共有化	実施			
45 研修への積極的な参加	検討	実施		
評価指標等	令和4年度基準値	目標値(令和7年度)	令和5年度実施状況	
42 アセスメントシートを活用し、課題の把握や支援のあり方、社会資源開発の視点などを持てるようケース検討の場を設ける	未実施	年1回以上	B	アセスメントシートを活用してまではできていないが、日常の業務の中で、自然と検討をしている。
43 適切な見立て力や調整力の向上をはかるため、係連絡会で気になる世帯についてケース検討を行う	未実施	年3回以上	A	月に1回程度は気になる世帯について話し合いの場を持っている。
44 連絡メモ入力のルーティン化を試みる	導入期(お試し入力の実施)	実施	A	2月頃から入力のルーティン化が定着している。
45 個々の職員が目標を達成できるよう「目標達成型」の研修計画をたて参加(計画、実施、記録化を促す)	未実施	職員一人につき、年2回以上	B	計画、参加ともに実施できている職員と未実施の職員との差があり統一したものはできていない。

A:できている B:ある程度できている C:あまりできていない D:できていない

実施計画2－2－2 3係連携による複合多問題等の事例共有の仕組みづくり					
ねらい・ポイント	複合多問題等を抱える個人や世帯が、困りごとの相談を気軽にでき、一人ひとりが自分らしく生きられるよう支え合いができる仕組みづくりを3係が連携して行います。				
年次計画					
実施項目		R5年度	R6年度	R7年度	
46 地域共生の意識を持ちつつ相談支援や参加支援、地域づくりの取り組みを3係が一体的に行えるようになるため、情報共有や事例共有のあり方を検討					
評価指標等		令和4年度基準値		目標値(令和7年度)	
46 職員全員研修や係連携会議を活用し、情報共有や事例共有のありかたについて意見を出し合う		未実施		実施	
46 事例共有ができる範囲の整理		未実施		マニュアル完成	
46 複合多問題等の課題を一緒に確認・把握できるよう、職員全員研修等でケース検討会を実施		未実施		年1回	
				令和5年度実施状況	
				A	係連携会議とラインワークスを活用し実施。
				A	話し合いはできたが、マニュアル作成には取りかかれていない。
				A	簡易な形ではあるが実施中。

A:できている B:ある程度できている C:あまりできていない D:できていない

経営戦略	2-3 地域の困りごとに対応できるネットワークを確立します
------	-------------------------------

地域の困りごとは多様化・深刻化・潜在化しています。そのため、地域の困りごとに対応するには多様なネットワークと、それを活用しチームで関わるのが重要です。本会では生活福祉資金や生活困窮者自立相談支援事業、福祉サービス利用援助事業や法人後見、介護保険や障害福祉サービスに対応する在宅福祉サービス(居宅介護支援や訪問介護)など多岐にわたる業務を行っています。このような業務を通じ、他機関との顔の見える関係づくりに努め、地域の困りごとに対応できるネットワークを確立します。

実施計画2-3-1 福祉、医療、介護、教育、司法、産業などの分野との連携・支援を充実				
ねらい・ポイント	世代や分野を超え多様化・複雑化する課題に対応するには、単一の相談窓口や機関だけでは課題解決に結び付きにくい状況があります。このため、福祉だけではなく医療や介護、教育、司法、産業などの分野が連携しチームとして関わるのが重要です。縦割りの弊害を少しでも軽減できるよう、分野を超えて支援を行えるありかたを模索します。			
年次計画				
実施項目	R5年度	R6年度	R7年度	
47 個別支援を通じた顔の見える関係づくり	実施			
48 ソーシャルサポートネットワークの構築	検討	実施		
49 具体的な成功事例を共有する場づくり	検討	実施		
評価指標等	令和4年度基準値	目標値(令和7年度)	令和5年度実施状況	
47 日常業務を通じた連携の充実(ケース会等の積極的な参加)	実施	充実・強化	A	可能な限り参加して連携を図っている。
48 顔の見える関係を作れるよう、自立支援協議会および部会、ひきこもり支援者のネットワーク等既存のネットワークに参加	実施	充実・強化	A	可能な限り参加し、顔の見える関係づくりに努めている。自立支援協議会と精神保健福祉部会や発達支援部会に定期的に参加。ひきこもり支援関係者ネットワーク会議に年間を通して参加。(会議4回、研修2回、振り返り1回)

49 民生委員からの相談事例について、その後の報告を丁寧に行 う	実施しているが十分 ではない	充実・強化	A	地区民協等で会う機会も活用しながら報告を 丁寧に行ってる。
-------------------------------------	-------------------	-------	---	----------------------------------

A:できている B:ある程度できている C:あまりできていない D:できていない

実施計画2－3－2 個別支援から地域づくりにつながる仕組みづくり				
ねらい・ポイント	本会に寄せられるすべての相談や、本会が実施しているサービスから、地域生活課題を再整理します。その中で把握した地域生活課題を解決するための取り組みをコミュニティソーシャルワーカーと一緒に模索します。			
年次計画				
実施項目	R5年度	R6年度	R7年度	
50 個別相談やサービスからの地域生活課題の把握	検討	実施		
51 個別相談やサービスから把握した地域生活課題を再整理	検討	実施		
評価指標等	令和4年度基準値	目標値(令和7年度)	令和5年度実施状況	
50 連絡メモやアセスメントシート、記録等を活用し、地域生活課題を把握	未実施	把握した結果を可視化する	B	連絡メモや地域支援シートのキントーンへの入力が進んだところで実施していく予定。 (把握できる準備はできてきており、課題の整理を今後実施していく予定。)
51 キントーン(連絡メモ等を入力しているシステム)を活用し、課題を再整理	未実施	再整理したものを可視化する	B	キントーンの入力環境は整い、入力を行い始めたところで、課題の再整理は今後取り組む予定。

A:できている B:ある程度できている C:あまりできていない D:できていない

営戦略	2-4 地域の生活課題を解決できる仕組みを作ります
-----	---------------------------

社会は多様な人から成り立っており、地域が抱える生活課題も多様です。その中には制度の狭間にある問題や出口のないものも多く、解決に向けた仕組みづくりが求められています。

このようなことから、本会では住民や専門職がそれぞれに強みを出し合い、困りごと解決に向けて社会資源の開発を行えるよう仕組みを作ります。

実施計画2-4-1 住民や専門職と協働での社会資源の開発				
ねらい・ポイント	地域に共通する課題で、対応する社会資源がないものに対して、住民や専門職と協働し課題解決のプロジェクト化に取り組みます。 また、就労に向けた準備ができる中間的就労の場として、農福連携ができるよう農業関係者や機関への働きかけも行います。			
年次計画				
実施項目	R5年度	R6年度	R7年度	
52 困りごと解決のためのプロジェクト化の検討	検討		実施	
53 出口のない課題対応のための社会資源の洗い出し	検討		実施	
54 就労先の開拓への取り組み		検討	実施	
55 社会福祉法人との連携による施策やサービスの開発		検討	実施	
評価指標等	令和4年度基準値	目標値(令和7年度)	令和5年度実施状況	
52 先進地への視察、研修	未実施	1か所以上	D	未実施
53 3係で出口がない人の課題に対応するための、出口がない社会資源について出し合う	未実施	実施し、洗い出したものを可視化する	A	係連携会議等で地域の課題を出し合った。 (市内の移動手段について、係連携会議を活用し課題を出し合った。)
54 農業関係者へ連携について相談	未実施	1か所以上	C	相談できるよう、情報収集している。
55 おもいやりネットワークの会議等を通して、必要なサービスについて話し合い、試行的に実施してみる	未実施	検討・実施	B	おもいやりの担当者会と地域ネットワーク会議を実施。必要なサービスについての話し合いには至っていない。今後取り組んでいく予定。

A:できている B:ある程度できている C:あまりできていない D:できていない

【基本目標・経営ビジョン3】

安定した法人運営と地域生活課題や社会情勢に対応できる組織づくりを目指します

経営戦略	3-1 安定した財源の確保に努めます
------	--------------------

地域福祉を推進する中核的な組織である本会は、収益性・対価のない事業を実施することが多く、市民の方の会費や寄附金、また、市及び県の補助金・委託金により運営を行っています。

このことから、安定した組織運営を図るための補助金・委託金の確保及び新たな事業等の検討を行います。

そして、会費、寄附金についてもより多くの市民の方により分かりやすく理解していただけるようホームページ等を活用した情報発信を行います。

実施計画3－1－1 自主財源の安定的な確保				
ねらい・ポイント	自治会加入世帯の減少、地域連帯感の希薄化等による会費及び寄附金の減少を少しでも逡減するため、振込みによる会費の徴収、ホームページ等を活用した情報発信等を行い、強化を図ります。			
年次計画				
実施項目	R5年度	R6年度	R7年度	
56 社協会費の納入方法の検討	検討		実施	
57 ホームページ等SNSを活用した情報発信	検討	実施		
評価指標等	令和4年度基準値	目標値(令和7年度)		令和5年度実施状況
56 振込みによる社協会費の納入	未実施	全自治会への周知、実施		C 振込口座及び電子決済(ペイペイ等)の課題の抽出に留まっている。
57 会費、寄附金等の使われ方等のSNSを活用した情報発信	未実施	ホームページ、Facebook、Twitterによる情報発信		B リニューアルしたホームページで会員会費制度、寄附について啓発はできた。

A:できている B:ある程度できている C:あまりできていない D:できていない

実施計画3-1-2 補助金・委託金の確保及びルールづくり				
ねらい・ポイント	市及び社協の実施事業等についての相互理解を深めるとともに、社協運営補助金について補助金交付要綱に沿った要求ができるよう理解を求めます。また、委託事業については、本会の方向性や委託金額が適正であるかを検討した上で、受託します。			
年次計画				
実施項目	R5年度	R6年度	R7年度	
58 市施策、関連事業の情報共有と協議	強化・実施			
59 補助金交付要綱に即した補助金要求及び検討依頼	検討		実施	
60 委託事業の適性な受託	随時検討・受託			
評価指標等	令和4年度基準値	目標値(令和7年度)	令和5年度実施状況	
58 市保健福祉部との定期的な情報交換会の実施	年間2回	年間3回(9月、11月、2月)	A	社会福祉課と予算編成に向けた情報交換会を実施した。
59 補助金交付要綱に即した補助金要求のための検討依頼	未実施	要綱に即した要求	A	情報交換会の際に令和6年度予算から補助金要綱に即した要求の承認を得、令和6年度においては、前年度対比500万円余の増額となった。要綱の見直しについては、今後の検討課題である。
60 予算要求時等における委託事業の受託検討	実施	実施	B	予算要求時に必要な経費の増額(人件費・事業費)要求を必要に応じて行い、概ね予算に反映できたが、通所サービス事業については、要望通りとはいかず、令和6年度の収支を見ながら検討していくこととした。

A:できている B:ある程度できている C:あまりできていない D:できていない

実施計画3-1-3 新規事業等の受託の検討					
ねらい・ポイント	重層的支援体制整備事業の実施について、市へ積極的に働きかけます。また、実施する場合は、受託し、地域福祉の推進強化及び財源の確保を目指します。				
年次計画					
実施項目		R5年度	R6年度	R7年度	
61 重層的支援体制整備事業等の積極的な働きかけと受託		検討	実施		
評価指標等		令和4年度基準値		目標値(令和7年度)	
61 重層的支援体制整備事業の受託		未実施		受託	
				A	令和6年度から多機関協働体制整備事業業務を受託。本格実施した際の参加支援、アウトリーチ、地域づくり事業の受託の検討も今後行っていく。

A:できている B:ある程度できている C:あまりできていない D:できていない

計画3－1－4 効果的な積立金の運用				
ねらい・ポイント	本会の重要な財源である各種基金については、年々減少していますが、運用益については、重要な財源の一つです。しかし、運用については国債を基本としているため運用益は見込めないことから、規程の改正を行い、出来るだけ安全に運用でき、運用益を見込めるよう、リスクヘッジのため、ファンド等を活用します。			
年次計画				
実施項目	R5年度	R6年度	R7年度	
62 ファンド等を活用した積立金の効果的な運用の検討	検討・規程改正		実施	
評価指標等	令和4年度基準値	目標値(令和7年度)	令和5年度実施状況	
62 基金運用規程の見直し	未実施	見直し・運用	D	検討できていない。

A:できている B:ある程度できている C:あまりできていない D:できていない

実施計画3-1-5 介護保険等事業等の適性化・構造化				
ねらい・ポイント	独立採算事業である介護保険等事業の経営については、厳しい状況が続いていることから、収入増に向けた検討を行うとともに、社協らしい事業展開を図り、事業規模についても検討していきます。また、通所サービス事業（市委託事業）について、適性化も踏まえ、検討します。			
年次計画				
実施項目	R5年度	R6年度	R7年度	
63 訪問介護事業、障害福祉サービス事業の充実強化	検討	充実・強化		
64 居宅介護支援事業の充実強化	検討	充実・強化		
65 通所サービス事業の経営の再検討	検討			
評価指標等	令和4年度基準値	目標値(令和7年度)		令和5年度実施状況
63、64、65 在宅業務改善会議での経営状況の分析、課題の把握による事業の適性化	実施	充実実施		C 業務改善会議で経営状況を在宅福祉係で共有するに留まっているが、職員が業務棚卸及び業務改善見直しの提案を実施し、課題等を出してもらったことから、令和6年度においては、それに基づき、検討会を実施する予定である。

A:できている B:ある程度できている C:あまりできていない D:できていない

経営戦略	3-2 人づくり・組織づくりの強化を行います
------	------------------------

組織を安定・継続的に運営していくために職員の強化・育成は最重要課題であると同時に、組織体制の整備も必須です。
市民の方に信頼され、地域の方とともにふくしのまちづくりを進められるよう、職員育成、組織体制を強化します。

実施計画3－2－1 計画的な職員の採用				
ねらい・ポイント	組織を安定継続的に運営していくために、均等な年齢層の職員を確保することは重要であるため、定期的な職員採用について協議を行います。			
年次計画				
実施項目		R5年度	R6年度	R7年度
66 組織の安定継続のための計画的な職員採用の検討実施		協議	実施	
評価指標等		令和4年度基準値		目標値(令和7年度)
66 事業展開に応じた計画的な人材確保		未実施		実施

A:できている B:ある程度できている C:あまりできていない D:できていない

実施計画3－2－2 組織を担うことができる人材の育成				
ねらい・ポイント	採用時から組織の業務・役割に応じた研修等の実施、また、人事異動により業務の幅や見識を広げ、ゼネラリスト(総合職)の育成を図ります。			
年次計画				
実施項目	R5年度	R6年度	R7年度	
67 職務に応じた研修の充実・実施	検討	実施		
68 人事異動による人材の育成・活性化	検討		実施	
評価指標等	令和4年度基準値	目標値(令和7年度)	令和5年度実施状況	
67 職務に応じた研修計画の作成	未計画	研修計画に沿った研修の実施	D	職員の自主性による研修の参加は見られるが、計画は作成できていない。
68 ルールに沿った人事異動の実施	実施はするが、ルール化はされていない	ルール化による人事異動の実施	C	令和6年度組織体制の構築の際に協議を行い、令和7年度から計画的に人事異動を行う予定である。ルール化はできていない。

A:できている B:ある程度できている C:あまりできていない D:できていない

実施計画3－2－3 社協組織全体としての方向性の統一				
ねらい・ポイント	社協の使命を全職員が共有することにより、係間の連携を密にし、更なる福祉サービスの向上を図ります。また、係間連携会議を実施し、実施事業等の理解を深めるとともに、対応困難な世帯等の事例検討を実施し、社協組織としてそうした世帯の生活を支えていける基盤をつくります。			
年次計画				
実施項目		R5年度	R6年度	R7年度
69 社協の使命を全職員で共有できる研修体系の確立		検討	実施	
70 実施業務の共有と対応困難な世帯等を支えていける組織の基盤づくり		充実・強化		
評価指標等		令和4年度基準値		目標値(令和7年度)
69 職員全員研修の充実実施		年2回実施		年3回実施(講師による研修含む。)
70 係間連携会議の実施		毎月1回実施		毎月1回実施する中で事例検討を実施

令和5年度実施状況	
B	職員全員研修を2回実施、常勤職員研修を1回実施し、組織の理解を図っている。
A	各係の代表職員が企画を検討し、地域福祉係主導で充実した会議を検討実施できている。

A:できている B:ある程度できている C:あまりできていない D:できていない

実施計画3－2－4 包括的な支援ができる組織再編				
ねらい・ポイント	複合多問題にもワンストップで対応できる組織体制の構築を検討するとともに、実施事業のスクラップアンドビルドを実施します。			
年次計画				
実施項目	R5年度	R6年度	R7年度	
71 複合多問題にもワンストップで対応できる組織再編の検討	検討		実施	
72 事業の効果的実施のためのスクラップアンドビルド	検討・実施			
評価指標等	令和4年度基準値	目標値(令和7年度)	令和5年度実施状況	
71 組織体制の見直し	未実施	再編	D	未実施
72 係連絡会による事務事業の見直し	地域福祉係のみ実施	各係で随時実施	C	職員が業務棚卸及び業務改善見直しの提案を実施し、課題等の抽出を行った。

A:できている B:ある程度できている C:あまりできていない D:できていない

経営戦略	3-3 DX(デジタルトランスフォーメーション)による事務事業の効率化を図ります
------	--

組織の健全な運営を図るためにも、DXにより、人事・労務等において事務事業の効率化及び業務の省略化・可視化を図ります。

実施計画3－3－1　D×による人事・労務等事務事業の効率化				
ねらい・ポイント	D×により、事務事業の効率化及びリスクマネジメントを図ります。			
年次計画				
実施項目	R5年度	R6年度	R7年度	
73　クラウドを活用した人事・労務管理システムの導入	検討・実施			
74　事務の効率化を図るための会計システムの見直し	検討・実施			
75　ICTを活用した届出関係書類の効率化	検討・実施			
76　ネットバンキングを活用した適正な金銭管理の実施	検討	実施		
77　相談支援業務及びサービス提供業務の ICT 化	検討・実施			
評価指標等	令和4年度基準値	目標値(令和7年度)	令和5年度実施状況	
73　人事・労務管理システムの導入	未実施	導入・運用	A	ジョブカンを活用した勤怠労務システムを導入
74　会計システムの見直し	検討中	導入・運用	D	課題は大きい但未実施
75　電子申請の積極的活用	未実施	導入・運用	D	未実施
76　ネットバンキングの導入	未実施	導入・運用	A	導入済
77　キントーンを活用した相談業務、在宅福祉サービス等の可視化	運用中	充実・強化	A	相談事業、地域支援事業の可視化のためアプリを開発し、運用で来ている。今後は、更なる広がりを期待できる。

A:できている B:ある程度できている C:あまりできていない D:できていない

経営戦略	3-4 危機管理体制の強化を図ります
------	--------------------

市民の方の個人情報等を多く保有する本会において、適正管理のための体制を構築します。

また、自然災害や新型コロナウイルス感染症などにより、組織運営が滞らないよう事業継続計画を適時、見直します。また、災害発生時に本会が開設する災害ボランティアセンターについて、開設のための基準等の明確化を図ります。

実施計画3－4－1 情報管理に関わるリスク対策の強化					
ねらい・ポイント	住基情報等の情報を保有することから、情報管理を徹底し、個人情報保護規程等を適宜、見直し、リスクマネジメントの強化を図ります。				
年次計画					
実施項目		R5年度	R6年度	R7年度	
78 個人情報の適正管理のためのルール化		実施・適宜見直し			
評価指標等		令和4年度基準値		目標値(令和7年度)	
78 制度改正に応じた個人情報保護規程等の見直し		実施		実施	
				D	未実施

A:できている B:ある程度できている C:あまりできていない D:できていない

実施計画3－4－2 事業継続計画の見直し					
ねらい・ポイント	災害時等の組織としての事業実施優先度を明確にするとともに、介護保険事業所、障害福祉サービス事業所の事業継続計画についても、その都度見直しを行います。				
年次計画					
実施項目		R5年度	R6年度	R7年度	
79 事業継続計画の定期的な見直し					
評価指標等		令和4年度基準値		目標値(令和7年度)	
79 事業継続計画研修会の実施		未実施		実施(年1回)	
				A	研修会を実施し、在宅福祉関係のBCPを作成できた。

A:できている B:ある程度できている C:あまりできていない D:できていない

実施計画3－4－3 災害ボランティアセンター開設のための体制強化				
ねらい・ポイント	災害ボランティアセンター開設については、市地域防災計画の中で社会福祉協議会が行うことが明記されており、実際の災害発生時に対応できるよう研修・訓練を実施するとともに、開設の基準を明確化するため、市防災管理部局と協議を行います。			
年次計画				
実施項目	R5年度	R6年度	R7年度	
80 災害ボランティアセンター開設のための研修の実施	実施			
81 災害ボランティアセンター開設のための訓練の実施	検討	実施		
82 災害ボランティアセンター開設のための市防災管理部局との基準等の明確化	協議	基準の明確化		
83 災害ボランティアセンター業務を活かす BCP の作成	検討		実施	
評価指標等	令和4年度基準値	目標値(令和7年度)	令和5年度実施状況	
80 災害ボランティアセンター開設のための研修会	未実施	実施(年1回)	C	令和6年度前半に実施する予定
81 災害ボランティアセンター開設のための訓練	未実施	実施(年1回)	C	研修を受けて実施する予定
80・81 県社協等が実施する災害関係研修会への参加	参加	積極的な参加	D	特に開催されていない。
82 市防災管理課との打合せ会の実施	未実施	基準の明確化	B	市社会福祉課が中心となり、防災を含む関係各課と情報共有の会を実施し、社協も参加し、ボランティアセンター等の課題を提言するに留まっている。
83 災害ボランティアセンターと連動した BCP の作成	検討	実施	C	検討はしたが、見直し作成までには至らなかった。

A:できている B:ある程度できている C:あまりできていない D:できていない